生活・サービス

医療・介護 最前線リポート

豊橋ハートセンター（愛知県）

心臓治療、開胸手術なしで

豊橋ハートセンター（愛知県豊橋市）は心臓や血管などの循環器系の疾患に特化した病院だ。患者にかかる負担を少なくするよう配慮した最先端の医療を積極的に導入しているほか、専門医をそろえ救急体制も充実させている。地域になくてはならない病院としての地位を確立するとともに、県外からも多くの患者を受け入れている。

豊橋ハートセンター2階の「ハイブリッド手術室」で、本来の役割を果たせなくなった心臓の弁を取り換える手術が進む。手術中、医師が見ているのは患者の胸ではなく、音波診断装置（エコー）やX線の画像を映し出す複数のモニターだ。

鈴木孝彦院長

豊橋ハートセンターは2014年2月、心臓弁が開閉する動きが悪くなる大動脈弁狭窄（きょうさく）症の患者に対する新しい治療法「経カテーテル大動脈弁治療（TAVI）」を導入した。

これまで大動脈弁狭窄症にかかった患者は開胸した上で弁を人工弁に取り換える外科手術を受ける必要があった。外科手術の安全性は確立されているものの、開胸した上に人工心肺装置を使い心臓の動きも止めるため、患者にかかる負担が大きい。そのため、高齢で体力が低下している患者は外科手術を受けることができず、そのまま死に至るケースも多かった。

TAVIは小さく畳んだ人工弁をカテーテルの先端に装着し、太ももの動脈を通じて心臓の大動脈弁の位置まで運んだ上でバルーンを膨らませて設置する治療法だ。

場合によっては肋骨の間を小さく切開しそこからカテーテルを挿入することもあるが、いずれの方法でも患者への負担は少ない。

「これまで手術をあきらめていた高齢者などにも治療の道を開いた治療法」（鈴木孝彦院長）。全患者の半数が豊橋市がある東三河地方以外からで、静岡や福井など愛知県外からの患者も多い。

TAVIを導入するには、心臓外科手術とカテーテル治療の双方が可能なハイブリッド手術室に加え、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医などからなる「ハートチーム」を備えることが条件。豊橋ハートセンターでは、TAVI導入が早かったフランスで経験を積んだ循環器内科の山本真功医師がハートチームのトップを務める。山本医師は「系列の名古屋ハートセンターでもTAVIを導入したい」と意気込む。

豊橋ハートセンターはTAVIのような先進医療に加え、救急医療体制の充実にも取り組む。循環器系の疾患は発症後の治療のスピードが生死を分けることが多いためだ。抱える医師約30人には実務経験が不足している研修医はおらず「循環器系の疾患であれば、24時間365日、急患に即座に対応できる態勢を整えている」（鈴木院長）のが強みという。

TAVIの導入と救急医療体制の充実について鈴木院長は「設立時から人と設備に注力して投資してきており、その成果が出ている」と話している。

（名古屋支社　佐藤俊簡）

《施設概要》
▽所在地　愛知県豊橋市犬山町五分取21の1
▽電　話　0532・37・3377
▽開　設　1999年5月
▽概　要　循環器内科や心臓血管外科などの診療科を持ち、循環器系疾患に強み。24時間の救命救急体制をとる
▽定　員　130床

モニターを見ながら弁の取り換え手術が進む（愛知県豊橋市）